

幾寅駅舎

(所有者：北海道旅客鉄道株式会社)

明治35年12月9日開駅

昭和8年建替 木造平屋 登記面積 122.88㎡

当時は、駅乗降口が旧市街（現在の栄町）方向であったが、昭和8年2月に駅舎が全焼し、同年6月に駅舎を南側から北側へ移転し再建された。駅名の起源は、アイヌ語「ユク・トラシ・ベツ」（鹿が・登る・川）の意味で、その上部を採って幾寅の漢字を当てたものである。駅舎は、本地点より少し落合方面に建設位置が計画されていたが、内藤正義（内藤農場主）が300万円寄付し、自己所有農場の入口方向に駅舎の位置を変更させたとされている。



